

H27-B-4 93.70~99.53m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
324	93.70	94.18	(割れ目状態欄)○ランク (岩級区分欄)CL	93.70	94.18	(割れ目状態欄)△ランク (岩級区分欄)CM	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを△ランクに変更した。 ・上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	93.70	94.18	(割れ目状態欄)△ランク (岩級区分欄)CM			
326	94.38	94.40	剪断性の節理2条。割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	94.38	94.40	せん断性の節理2条。割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	・表現の統一(せん断) ・各節理を横断する石英粒が見られる ・挟在する細粒部の連続性。当該区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した。	94.38	94.40	94.38~94.40m:2条の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。			
327	94.40	94.76	(コアの形状欄)▽ランク (割れ目状態欄)△ランク	94.40	94.76	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)△ランク	・割れ目が少なく、挟在物を伴う割れ目は少ないためコアの形状及び割れ目状態のランクを変更した。	94.40	94.76	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)△ランク			
328	95.08	95.37	35~60°の平行した割れ目沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。	95.08	95.37	35~60°の平行した割れ目沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。 95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	95.08	95.37	95.08~95.37m:35~60°の平行した割れ目沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。			
329	95.55	95.75	劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。	95.55	95.75	傾斜60°、幅3cm程度で劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。砂礫状を呈する。	・劣化部の傾斜及び幅について追記した。 ・砂礫状部は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・輝沸石はアルカ性の熱水変質で晶出することが多く、数箇所で見られる変質鉱物は酸性~中性のものが多いため、そのような環境で晶出する輝沸石の方が適切と判断して変更した。	95.55	95.75	95.55~95.75m:傾斜60°で幅3cm程度で劣化し砂礫状を呈する。輝沸石が散在する。			
330	96.20	96.20	30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱。軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。	96.20	96.20	30°のせん断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱。軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。 下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる砂や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の統一(せん断) ・緑色化は全体に見られるため「一部」を削除した。 ・砂礫状部の砂の定向配列、脆弱部の境界の直線性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・追記した理由から破砕部及びせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」「弱い破砕を受け」を削除した。	96.20	96.20	96.20~96.32m:30°で幅30~40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる砂や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
331	96.42	97.10	(色調欄)7.5YR8/6 浅黄橙	96.42	97.10	(色調欄)7.5YR8/6 浅黄橙	・96.42mに色調境界が見られないため、96.22mに境界を変更した。	96.42	97.10	(色調欄)浅黄橙			
332	96.53	97.00	(割れ目状態欄)○ランク	96.53	97.00	(割れ目状態欄)△ランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを△ランクに変更した。	96.53	97.00	(割れ目状態欄)△ランク			
333	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)○ランク	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)○ランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを○ランクに変更した。	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)○ランク			
334	96.85	97.00	(コアの形状欄)▽ランク	96.85	97.00	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	96.85	97.00	(コアの形状欄)IVランク			
335	-	-	-	96.98	96.98	傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化している。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	96.98	96.98	96.98m:傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化する。			
336	97.10	97.58	割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	97.10	97.58	割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。コアが乱れている。	・卓越を強調に変更し、文章の適正化を図った。 ・コアの混乱部について追記した。	97.10	97.58	97.10~97.58m、97.81~98.03m:割れ目が著しく発達し、砂礫状を呈する。コアが乱れている。	・記事内容が同じであるため、97.81~98.03mの深度も含めて記載した。		
337	97.58	97.81	(岩級区分欄)CL	97.58	97.81	(岩級区分欄)D	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	97.58	97.81	(岩級区分欄)Dに含める			
338	97.81	98.03	割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	97.81	98.03	割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	・卓越を強調に変更し、文章の適正化を図った。	-	-	-	・上記にまとも書きしたため記載しない		
339	98.02	98.27	短柱状~岩片状コア。割れ目沿った劣化が顕著。	98.02	98.27	短柱状~岩片状コア。傾斜40~60°の割れ目沿った劣化が顕著。	・コアに合わせて上端深度を変更した。 ・割れ目の傾斜について追記した。	98.02	98.27	98.02~98.27m:短柱状~岩片状コアからなる。傾斜40~60°の割れ目沿った劣化が顕著である。			
340	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)○ランク	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)○ランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを○ランクに変更した。	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)○ランク			
341	98.27	98.56	(コアの形状欄)▽ランク	98.27	98.56	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	98.27	98.56	(コアの形状欄)IVランク			
342	99.27	99.53	柱状~短柱のコアとして採取されるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	99.27	99.53	柱状~短柱のコアとして採取されるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	・柱状~短柱のコアの上端深度をコアに合わせて変更した。 ・記載の修正(「状」の記載漏れ)。	99.27	99.53	98.27~99.53m:柱状~短柱状コアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。			

H27-B-4 98.64~102.37m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
343	-	-	98.64	98.64	傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。			粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	98.64	98.64	98.64m: 傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。	-	
344	-	-	98.70	98.74	マンガン濃集帯			マンガン濃集帯は周囲と異なる状況であるため追記した	98.70	98.74	98.70~98.74m: マンガンが濃集する。	-	
345	98.86	99.00	98.86	99.00	(コアの硬さ欄)0ランク			コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した	98.86	99.00	(コアの硬さ欄)0ランク	-	
346	98.86	108.44	98.86	108.44	(変質欄)3ランク			変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	98.86	108.44	(変質欄)2ランク	-	
347	99.05	99.10	99.05	99.10	局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著。 99.10m付近 輝沸石が明確に見られる。 傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化している。			汚染の種類について追記した。 輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、変質サイトで見られる変質鉱物は緑泥石→中性的のものが多いため、そのような環境で晶出する輝沸石の方が適切と判断して変更した。 文意の修正(明確⇒多く) 緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	99.05	99.10	99.05~99.10m: 局所的に劣化が進み礫状となる。酸化汚染も顕著である。 99.10m付近に輝沸石が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化する。	-	
348	99.10	99.62	99.10	99.62	(コアの硬さ欄)0ランク			コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した	99.10	99.62	(コアの硬さ欄)0ランク	-	
349	99.53	101.30	99.53	101.30	(割れ目状態欄)0ランク			挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを0ランクに変更した	99.53	101.30	(割れ目状態欄)0ランク	-	
350	100.28	100.28	100.28	100.28	50°~55°の割れ目中に赤褐色の砂状の破砕物 挟在物を厚さ2mmで不連続に挟む。褐色汚染明瞭。 割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、 系統的な割れ目も存在しない。			砂状部の色調を追記した。 該部深度の挟在物の幅に変更した。 割れ目周辺の岩壁の原岩組織の有無及び系統的な割れ目の有無について追記した。 追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	100.28	100.28	100.28m, 100.30m: 50°~55°で幅2~4mmの赤褐色の砂状挟在物を不連続に挟む。褐色汚染が明瞭である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	記事内容が同じであるため、100.30mの深度も含めて記載した	
351	100.30	100.30	100.30	100.30	50°~55°の割れ目中に赤褐色の砂状の破砕物 挟在物を厚さ4mmで不連続に挟む。褐色汚染明瞭。 割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、 系統的な割れ目も存在しない。			砂状部の色調を追記した。 該部深度の挟在物の幅に変更した。 割れ目周辺の岩壁の原岩組織の有無及び系統的な割れ目の有無について追記した。 追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない	
352	100.44	100.58	100.44	100.58	(コアの形状欄)IIランク			割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIランクに変更した	100.44	100.58	(コアの形状欄)IIランク	-	
353	100.45	100.45	100.45	100.45	25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性が高い。			コアに合わせて鉱物の色を変更した。 孔雀石、珪孔雀石の生成には多量の銅元素が必要であるが、変質サイトの花崗岩類に多量の銅元素は含まれないため記載を削除した。 緑色鉱物は変質サイトで普遍的に見られる緑泥石による緑色化によるものと判断して緑泥石に変更した	100.45	100.45	100.45m: 25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の緑泥石が見られる。	-	
354	101.07	101.30	101.07	101.30	(コアの硬さ欄)0ランク (岩級区分欄)CL			コアは硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した。 上記の変更に伴い、岩級を変更した	101.07	101.30	(コアの硬さ欄)0ランク (岩級区分欄)CM	-	
355	101.24	101.30	101.24	101.30	(コアの形状欄)IVランク			割れ目は少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	101.24	101.30	(コアの形状欄)IVランク	-	
356	101.30	101.43	101.30	101.43	(岩級区分欄)CL			区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	101.30	101.43	(岩級区分欄)CMに含める	-	
357	101.31	101.43	101.31	101.43	低角度を主体とした割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明瞭。一部局所的に礫状となる。			割れ目の傾斜を具体的に追記した。 追記の修正(主体とした⇒主体とした)	101.31	101.43	101.31~101.43m: 5~20°の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明瞭で、一部局所的に礫状となる。	-	
358	-	-	101.34	101.34	傾斜51°で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。			砂状部の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	101.34	101.34	101.34m: 傾斜51°で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。	-	
359	101.43	102.23	-	-	-			-	101.43	102.23	101.43~102.23m: 柱状~長柱状コアが主体で、岩質も堅硬である。	-	
360	102.23	102.37	102.23	102.37	割れ目がやや卓越。102.23m, 102.25mは剪断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭。 傾斜50°の割れ目がやや卓越。102.23m, 102.25mはせん断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭。 幅1~5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、 系統的な割れ目も存在しない。			割れ目の傾斜を具体的に追記した 表裏の統一(せん断) シルトの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。 せん断性節理に挟まれた区間及び周辺岩壁の原岩組織の有無を系統的な割れ目の有無について追記した。 追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の節理」を削除した	102.23	102.37	102.23~102.37m: 傾斜50°の割れ目がやや卓越し、102.23m, 102.25mは割れ目沿いの劣化が明瞭である。幅1~5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
361	102.23	102.37	102.23	102.37	(割れ目状態欄)0ランク			挟在物を伴うため割れ目状態のランクを0ランクに変更した	102.23	102.37	(割れ目状態欄)0ランク	-	

H27-B-4 102.23~106.92m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度		下端深度	選定した記事内容	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
362	102.23	102.56	(岩級区分欄)CL (コアの硬さ欄)Cランク	102.23	102.56	(岩級区分欄)CH (コアの硬さ欄)Bランク	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた ・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	102.23	102.56	(岩級区分欄)CHに含める (コアの硬さ欄)Bランク	-	
363	102.37	102.89	(コアの形状欄)IVランク	102.37	102.89	(コアの形状欄)IIIランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	102.37	102.89	(コアの形状欄)IIIランク	-	
364	102.56	103.37	(岩級区分欄)CL	102.56	103.37	(岩級区分欄)CH	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	102.56	103.37	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-	
365	102.56	102.89	(岩級区分欄)CL	102.56	102.89	(岩級区分欄)CH	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	102.56	102.89	(岩級区分欄)CH	-	
366	102.89	103.37	(岩級区分欄)CM	102.89	103.37	(岩級区分欄)CH	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	102.89	103.37	(岩級区分欄)CH	-	
367	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク	・コアはやや軟質で割れ目が発達するため、コアの硬さ、コアの形状のランクを変更した	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク	-	
368	103.37	103.72	(割れ目状態欄)bランク	103.37	103.72	(割れ目状態欄)cランク	・挟在物を伴うため割れ目状態のランクをcランクに変更した	103.37	103.72	(割れ目状態欄)cランク	-	
369	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Cランク	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Dランク	・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
370	103.40	103.55	(岩級区分欄)CL	103.40	103.55	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	103.40	103.55	(岩級区分欄)CMに含める	-	
371	103.40	103.55	高角度主体の微細な割れ目が卓越する。	103.40	103.55	傾斜40~50°の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	・微細な割れ目について分布範囲などを追記した ・卓越するほど多くはないため、「分布する」に変更した ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	103.40	103.55	103.40~103.55m:傾斜40~50°の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	-	
372	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Bランク	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Cランク	-	
373	104.03	104.17	50°~60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する。これとほぼ直交する割れ目は横断しているものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩体には原岩組織が認められる。	104.03	104.17	50°~60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する。これとほぼ直交する割れ目は横断しているものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩体には原岩組織が認められる。	・表現の統一(せん断) ・割れ目沿いの細粒部の連続性や原岩組織の有無について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した	104.03	104.17	104.03~104.17m:50~60°の割れ目が卓越し、これとほぼ直交する割れ目は横断するものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩体には原岩組織が認められる。	-	
374	104.03	104.17	(割れ目状態欄)bランク	104.03	104.17	(割れ目状態欄)cランク	・挟在物を伴うため割れ目状態のランクをcランクに変更した	104.03	104.17	(割れ目状態欄)cランク	-	
375	104.03	104.17	(岩級区分欄)CL	104.03	104.17	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	104.03	104.17	(岩級区分欄)CMに含める	-	
376	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Cランク	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Bランク	-	
377	104.17	104.36	(コアの形状欄)IVランク	104.17	104.36	(コアの形状欄)IIIランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	104.17	104.36	(コアの形状欄)IIIランク	-	
378	104.17	104.67	(岩級区分欄)CL	104.17	104.67	(岩級区分欄)CM	・上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態ランクの変更に伴い、深度104.17~104.36m間がCH級、104.36~104.67m間がCM級となり、各区間長が50cm未満となるため、CH級の区間は周囲の岩級に含めてCM級とした	104.17	104.67	(岩級区分欄)CM	-	
379	104.50	104.90	コアは斑状の褐色汚染が顕著である。	-	-	-		104.50	104.90	104.50~104.90m:斑状の褐色汚染が顕著である。	-	
380	104.67	105.08	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	104.67	105.08	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	104.67	105.08	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-	
381	105.08	105.80	柱状コアが主体で岩質も堅硬。	-	-	-		105.08	105.80	105.08~105.80m:柱状コアが主体で岩質も堅硬である。	-	
382	105.80	106.09	(コアの形状欄)IVランク	105.80	106.09	(コアの形状欄)IIIランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	105.80	106.09	(コアの形状欄)IIIランク	-	
383	106.31	106.38	局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。	106.31	106.38	局所的に傾斜10~45°の割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・表現の適正化(僅か⇒わずか)	106.31	106.38	106.31~106.38m:局所的に傾斜10~45°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	-	
384	106.37	107.47	(割れ目状態欄)cランク	106.37	107.47	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	106.37	107.47	(割れ目状態欄)bランク	-	
385	106.52	108.44	(岩級区分欄)CM	106.52	108.44	(岩級区分欄)CH	・割れ目状態のランクをbランクに変更したことに伴い、岩級を変更した ・一部、区間長が50cm未満のCM級を挟むが、周囲のCH級に含めた	106.52	108.44	(岩級区分欄)CHに含める	-	
386	106.58	106.92	コアに斑状の褐色汚染が見られる。	-	-	-		106.58	106.92	106.58~106.92m:斑状の褐色汚染が見られる。	-	

H27-B-4 106.87~110.05m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由		上端深度	下端深度	選定した記事内容	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>						
387	106.87	106.87	30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂〜シルトが厚さ3mmで挟在する。	-	-	-			106.87	106.87	106.87m.30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂〜シルトを挟む。	-
388	107.11	107.31	(コアの形状欄)Ⅳランク	107.11	107.31	(コアの形状欄)Ⅱランク	・割れ目が存在しないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した		107.11	107.31	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
389	107.47	108.34	堅硬な柱状コアが主体、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない。	-	-	-			107.47	108.34	107.47~108.34m.堅硬な柱状コアが主体で、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが、挟在物はほとんど見られない。	-
390	107.91	108.34	(コアの形状欄)Ⅲランク	107.91	108.34	(コアの形状欄)Ⅱランク	・割れ目が存在しないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した		107.91	108.34	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
391	108.44	108.71	弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。	108.44	108.71	破砕部、最新活動面は上端(最も直線的な部)	・破砕部であるため、下記に詳細を追記した ・最新活動面の位置を追記した		108.44	108.71	●108.44~108.71m:破砕部 108.44~108.63m:粘土混じり塊状部(H) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 108.63~108.67m:粘土質塊状部(Hb) 上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片を主体で、軟質。上位より変質し灰白色を呈する。幅35mm。 108.67~108.71m:塊状粘土状部(Hb) 上端57°で漸移的に、下端62°で波打って連続。褐色汚染が明瞭で、褐色の軟質な基質に径10mm以下の岩片を含む。綿状構造が見られる。	・複数、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
392	-	-	-	108.44	108.63	粘土混じり塊状部(H) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片を主体で、全体に軟質。上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は網目状で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界、色調、内部構造、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した		108.44	108.71	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界の傾斜及び直線性、内部構造、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、真価について追記した	
393	-	-	-	108.63	108.67	粘土質塊状部(Hb) 幅30mm程度、上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片を主体。全体に軟質。上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は網目状に分析し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界の傾斜及び直線性、内部構造、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、真価について追記した		108.63	108.67	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界の傾斜及び直線性、内部構造、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、真価について追記した	
394	108.67	108.71	褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に塊状部が点在する。	108.67	108.71	硬質粘土状部(Hb) 褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に塊状部が点在する。幅35mm程度。 上端57°で漸移的に、下端62°で境界は波打って連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は褐色汚染のため不明瞭。径10mm以下の岩片を含む。綿状構造が見られる。	・上記に合わせて変更した		108.67	108.71	(破砕度区分)Hb	-
395	108.67	108.71	(破砕度区分)H	108.67	108.71	(破砕度区分)Hb	・コアは極軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した ・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した		108.67	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	-
396	108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)3ランク	108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	・区間長が50cm未満のため、断面の等級に含めた		108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	-
397	108.44	108.71	(岩級区分)D	108.44	108.71	(岩級区分)CL	・区間長が50cm未満のため、断面の等級に含めた		108.44	108.71	(岩級区分)CLに含める	-
398	108.71	109.79	割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	108.71	109.79	傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	・割れ目の傾斜を具体的に追記した		108.71	109.79	108.71~109.79m:傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	-
399	108.71	108.90	2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	108.71	108.90	直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	・2方向の割れ目の交差関係について追記した		108.71	108.90	108.71~108.90m:直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	-
400	108.71	140.00	(変質欄)3ランク	108.71	140.00	(変質欄)2ランク	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した		108.71	140.00	(変質欄)2ランク	-
401	-	-	-	108.90	109.03	砂塊状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。	・砂塊状を呈することは断面と異なる状況であるため追記した		108.90	109.03	108.90~109.03m:砂塊状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。	-
402	-	-	-	109.41	109.41	傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は硬化し、にぶい褐色に変色して原岩組織も不明瞭となる。	・粘土及びマンガンの挟在と硬化変質は断面と異なる状況であるため追記した		109.41	109.41	109.41m:傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は硬化し、にぶい褐色に変色して原岩組織も不明瞭となる。	-
403	-	-	-	109.76	109.79	傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭。	・強変質部は断面と異なる状況であるため追記した		109.76	109.79	109.76~109.79m:傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭である。	-
404	109.79	110.03	(割れ目状態欄)cランク	109.79	110.03	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した		109.79	110.03	(割れ目状態欄)bランク	-
405	109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Cランク	109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した		109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Bランク	-

H27-B-4 109.79~120.10m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
406	110.03	110.78	109.79	110.78			109.79	110.78		
		微細な割れ目が集まる所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。			微細な割れ目が集まる所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。				109.79~110.78m: 微細な割れ目が集まる所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは密着する。	
407	-	-	109.79	110.38	傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。		109.79	110.38	109.79~110.38m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	
		(コアの硬さ欄)Bランク			(コアの硬さ欄)Cランク				(コアの硬さ欄)Cランク	
408	110.68	110.78	110.68	110.78	(岩級区分欄)CL		110.68	110.78	(岩級区分欄)CMIに含める	
		(岩級区分欄)CL			(岩級区分欄)CM				(岩級区分欄)CMIに含める	
409	110.68	110.78	110.68	110.78	(コアの硬さ欄)Cランク		110.68	110.78	(コアの硬さ欄)Bランク	
		(コアの硬さ欄)Bランク			(コアの硬さ欄)Bランク				(コアの硬さ欄)Bランク	
410	111.07	111.12	111.07	111.12	(コアの形状欄)IVランク		111.07	111.12	(コアの形状欄)IVランク	
		(コアの形状欄)IVランク			(コアの形状欄)Vランク				(コアの形状欄)Vランク	
411	111.12	111.22	111.12	111.22			111.12	111.22		
					傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。				111.22~111.59m: 傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。	
412	-	-	111.22	111.59			111.22	111.59		
		付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している。							111.57m付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色する。	
413	111.57	111.57	-	-			111.57	111.57		
		(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM			(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH				(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	
414	111.79	112.82	111.79	112.82			111.79	112.82		
		高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。			傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。				112.84~113.03m: 傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。	
415	112.84	113.03	112.84	113.03			112.84	113.03		
		割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mm軟質、脆弱となる。			微細な割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mm軟質、脆弱となる。				113.41~113.54m: 微細な割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mm軟質、脆弱となる。	
416	113.41	113.54	113.41	113.54			113.41	113.54		
		(岩級区分欄)CL			(岩級区分欄)CM				(岩級区分欄)CMIに含める	
417	113.41	113.54	113.41	113.54			113.41	113.54		
		(コアの形状欄)IVランク			(コアの形状欄)IIIランク				(コアの形状欄)IIIランク	
418	114.42	114.57	114.42	114.57			114.42	114.57		
		割れ目が卓越する。114.60~114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は隙~岩片状となる。			割れ目が卓越する。114.60~114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は隙~岩片状となる。				114.57~114.76m: 割れ目が卓越する。114.60~114.66m間は40°程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は隙~岩片状となる。	
419	114.57	114.76	114.57	114.76			114.57	114.76		
		(岩級区分欄)CL			(岩級区分欄)CM				(岩級区分欄)CMIに含める	
420	114.57	114.76	114.57	114.76			114.57	114.76		
		115.46m付近の2本の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。			115.46m付近の2本の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。				115.40~115.54m: 115.46m付近の2本の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭である。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著に見られる。	
421	115.40	115.54	115.40	115.54			115.40	115.54		
		(岩級区分欄)CM			(岩級区分欄)CH				(岩級区分欄)CMIに含める	
422	116.11	116.52	116.11	116.52			116.11	116.52		
		57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の挟在物が見られる。							116.30m: 57°で幅5mmの褐色に汚染された砂状挟在物が見られる。	
423	116.30	116.30	-	-			116.30	116.30		
		柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。							116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。	
424	116.52	119.32	-	-			116.52	119.32		
		50°の割れ目によって熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。			50°の割れ目によって熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。				117.83m: 50°の割れ目によって熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色味を帯びる。割れ目の周囲には輝沸石が晶出する。	
425	117.83	117.83	117.83	117.83			117.83	117.83		
		(ROD欄)32			(ROD欄)30				(ROD欄)30	
426	119.00	120.00	119.00	120.00			119.00	120.00		
		割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂~シルト状の挟在物が見られる。			割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂~シルト状の挟在物が見られる。				119.65~119.83m: 割れ目がやや卓越する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。	
427	119.65	119.83	119.65	119.83			119.65	119.83		
		(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL			(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM				(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	
428	119.65	120.10	119.65	120.10			119.65	120.10		

H27-B-4 120.05~125.37m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
429	-	120.10	120.05	120.05	傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	・割れ目沿いの変質、軟質化について具体的に記載した ・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	120.05	120.05	120.05m、120.07m:傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	・記事内容が同じであるため、120.07mの深度も含めて記載した
430	-	-	120.07	120.07	傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない
431	120.31	120.31	120.31	120.31	付近、35°の平行な割れ目が集中。砂~礫状の挟在物が見られる。	・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した ・砂~礫状の挟在物が見られず、マンガンを挟在するのみであるため変更した	120.31	120.31	120.31m付近、35°の平行な割れ目が密集し、マンガンを挟む。	-
432	120.40	120.40	120.40	120.40	58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質層と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。	・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した ・水酸化鉄とは言い切れないため、顕著な褐色化に変更した	120.40	120.40	120.40m、40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の変質層と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。	-
433	120.40	122.54	-	-	堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-	120.40	122.54	120.40~122.54m:堅硬な柱~長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-
434	120.67	120.69	120.67	120.69	(コアの形状欄)IIランク	・120.69mに割れ目が傾斜できないため、コアの形状のランクの境界を変更した	120.67	120.69	(コアの形状欄)IIランク	-
435	121.16	121.32	121.16	121.32	(コアの形状欄)IIIランク	・割れ目が少し多くなるためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	121.16	121.32	(コアの形状欄)IIIランク	-
436	121.60	121.60	121.60	121.60	割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	・傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。 ・傾斜の修正(割れ=割れ目)	121.60	121.60	121.60m:傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	-
437	121.60	121.74	121.60	121.74	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	121.60	121.74	(岩級区分欄)CHに含める	-
438	122.46	122.46	122.46	122.46	割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼす。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。	・傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。 ・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・傾斜の修正(及び見る⇒帯びる) ・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で風出すことが多く、変質サイトで見られる変質鉱物は酸程~中性のものが多いため、そのような環境で風出す輝沸石の方が適切と判断して変更した	122.46	122.46	122.46m:傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。輝沸石が散在し、褐色汚染も顕著である。	-
439	122.54	122.78	122.54	122.78	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	122.54	122.78	(岩級区分欄)CMIに含める	-
440	122.54	123.84	-	-	顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	-	122.54	123.84	122.54~123.84m:顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	-
441	122.78	123.00	122.78	123.00	(割れ目状態欄)cランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	122.78	123.00	(割れ目状態欄)bランク	-
442	123.00	123.26	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンを挟まる。割れ目が集中し脆弱である。	・表観の統一(マンガン) ・傾斜の修正(濁水⇒集中)	123.00	123.26	123.00~123.26m:高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガンを挟む。割れ目が密集し脆弱である。	-
443	123.00	123.26	123.00	123.26	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	123.00	123.26	(岩級区分欄)CMIに含める	-
444	-	-	123.15	123.15	傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で緑色化している。	・粘土の挟在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	123.15	123.15	123.15m:傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で緑色化する。	-
445	123.15	124.30	123.15	124.30	(割れ目状態欄)cランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	123.15	124.30	(割れ目状態欄)bランク	-
446	123.85	123.85	-	-	60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が挟在する。	-	123.85	123.85	123.85m:60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。	-
447	124.09	-	124.09	125.20	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまで割れ目に挟在物が見られる。	・柱状コアを呈する下端深度を追記した ・124.30m以下の割れ目に挟在物を伴うことは少ないため削除した	124.09	125.20	124.09~125.20m:柱状コアが主体となり、岩質も硬い。	-
448	124.09	124.61	124.09	124.61	(コアの形状欄)IIランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIランクに変更した	124.09	124.61	(コアの形状欄)IIランク	-
449	124.09	124.30	124.09	124.30	(岩級区分欄)CM	・上記の変更及び割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	124.09	124.30	(岩級区分欄)CH	-
450	124.61	124.77	124.61	124.77	(コアの形状欄)IIランク	・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	124.61	124.77	(コアの形状欄)IVランク	-
451	125.20	125.37	125.20	125.37	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	125.20	125.37	(岩級区分欄)CHに含める	-
452	125.37	125.37	-	-	付近、局所的に微細な割れ目が集中する。	-	125.37	125.37	125.37m付近、局所的に微細な割れ目が密集する。	-

H27-B-4 126.34~133.59m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
453	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。 (岩級区分欄)CH	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。 (岩級区分欄)CM	126.34	126.69	126.34~126.69m:柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。 (岩級区分欄)CMに含める	-
454	126.34	126.69	-	126.34	126.69	-	126.34	126.69	-	-
455	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が卓越。	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が発達。	127.00	127.83	127.00~127.83m:不規則で微細な割れ目が発達する。	-
456	127.06	127.30	賦質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	-	-	-	127.06	127.30	127.06~127.30m:賦質でコア表面はザラつく。変質により割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	-
457	-	-	-	127.19	127.22	傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土。一部赤褐色粘土を挟む。	127.19	127.22	127.19~127.22m:傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土。一部赤褐色粘土を挟む。	-
458	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CL	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CM	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CM	-
459	128.26	128.76	微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 (岩級区分欄)CM	128.26	128.76	微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 (岩級区分欄)CL	128.26	128.76	128.26~128.76m:微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 (岩級区分欄)CLに含める	-
460	128.76	128.90	-	128.76	128.90	-	128.76	128.90	-	-
461	128.90	129.15	割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	128.90	129.15	一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	128.90	129.15	128.90~129.15m:一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	-
462	129.52	130.08	(割れ目状態欄)Ⅱランク	129.52	130.08	(割れ目状態欄)Ⅱランク	129.52	130.08	(割れ目状態欄)Ⅱランク	-
463	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅲランク	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅱランク	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
464	-	-	-	129.98	130.50	傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	129.98	130.50	129.98~130.50m:傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	-
465	129.94	130.08	(岩級区分欄)CL	129.94	130.08	(岩級区分欄)CM	129.94	130.08	(岩級区分欄)CM	-
466	130.02	130.42	高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。 (岩級区分欄)CL	130.02	130.42	80°の高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。 (岩級区分欄)CM	130.02	130.42	130.02~130.42m:80°の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。 (岩級区分欄)CMに含める	-
467	130.08	130.42	-	130.08	130.42	-	130.08	130.42	-	-
468	130.84	130.84	付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	130.84	130.84	付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	130.84	130.84	130.84m付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	-
469	131.54	131.64	コアの半分が劣化し礫状となる。	131.54	131.61	コアの半分が劣化し礫状となる。	131.54	131.61	131.54~131.61m:コアの半分が劣化し礫状となる。	-
470	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Ⅰランク (コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CL	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅲランク (割れ目状態欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CH	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅲランク (割れ目状態欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CH	-
471	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	-
472	131.75	132.14	(岩級区分欄)CM	131.83	132.14	(岩級区分欄)CH	131.83	132.14	(岩級区分欄)CHに含める	-
473	132.14	132.87	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	132.14~132.67m:堅硬な柱状コアからなる。	-
474	-	-	-	132.31	132.31	傾斜25°、幅1~2mmの石英脈を挟む。	132.31	132.31	132.31m:傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	-
475	-	-	-	132.67	132.67	傾斜82°の割れ目が分布。	132.67	132.67	132.67m:傾斜82°の割れ目が分布する。	-
476	132.67	133.59	(岩級区分欄)CM	132.67	133.59	(岩級区分欄)CH	132.67	133.59	(岩級区分欄)CHに含める	-

H27-B-4 132.87~136.22m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
477	132.87	132.87	60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	45°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	132.87m:45°で幅3mmのマンガンを挟む。	-
478	132.99	133.59	(割れ目状態欄)hランク	132.99	133.59	(割れ目状態欄)hランク	132.99	133.59	(割れ目状態欄)hランク	-
479	133.12	133.90	(コアの形状欄)IIランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)IIIランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)IIIランク	-
480	133.26	133.26	割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	傾斜40~50°の割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	133.24~133.29m:傾斜40~50°の割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	-
481	-	-	-	133.90	133.90	傾斜72°の割れ目に沿って褐色化が顕著。	133.90	133.90	133.90m:傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。	-
482	133.90	134.12	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	133.90	134.12	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	133.90	134.12	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
483	134.02	134.50	強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	-	-	-	134.02	134.50	134.02~134.50m:強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	-
484	134.30	135.01	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	134.30	135.01	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	134.30	135.01	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
485	134.50	134.74	コアはやや青味を及ぼす。風化の影響は少ないが、硬化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、硬化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	134.50~134.74m:コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。	-
486	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に及ぶ。	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に及ぶ。	134.78	134.78	134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	-
487	135.28	135.60	この間の低角度割れ目は2~3本の割れ目が2~4m程度の距離で平行に揮している。岩質は硬い。	135.28	135.60	この間の傾斜23°前後の割れ目は2~3本の割れ目が2~10cm程度の間隔で平行に分布している。岩質は硬い。	135.28	135.60	135.28~135.60m:傾斜25°前後の2~3本の割れ目が2~10cm程度の間隔で平行に分布する。岩質は硬い。	-
488	135.60	135.76	(コアの形状欄)IVランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)IIIランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)IIIランク	-
489	136.00	136.20	高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	傾斜90°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	136.00~136.22m:傾斜90°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	-
490	136.00	136.30	(岩級区分欄)CL	136.00	136.30	(岩級区分欄)CM	136.00	136.30	(岩級区分欄)CMに含める	-
491	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)Cランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)Bランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)Bランク	-
492	136.22	136.30	(コアの形状欄)IVランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)IVランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)IVランク	-
493	136.22	136.64	(割れ目状態欄)cランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)hランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)hランク	-
494	136.34	136.34	38°の割れ目に沿って幅1cm程度緑色を帯びた変質部(緑泥石化帯)が見られ、その中に小さな緑泥石が散在し、光る。	136.04	136.04	38°の割れ目に沿って幅1cm程度緑色を帯びた変質部(緑泥石化帯)が見られ、その中に小さな緑泥石が散在し、光る。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	136.04	136.04	136.04m:38°の割れ目に沿って幅1cm程度で緑色を帯びた緑泥石化による変質部が見られ、その中に小さな緑泥石が散在する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	-
495	-	-	-	136.10	136.10	傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で硬化し褐色化する。	136.10	136.10	136.10m:傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で硬化し褐色化する。	-
496	-	-	-	136.21	136.22	傾斜25°程度の2本に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを挟む。	136.21	136.22	136.21~136.22m:傾斜25°程度の2本に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを挟む。	-

H27-B-4 136.50~139.90m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
497	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	-
498	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガン の汚染が見られる。	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に傾斜30~40°の割れ目が 密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	136.61m:幅5~15mmで局所的に傾斜30~40° の割れ目が密集し、マンガン の汚染が見られる。	-
499	136.64	137.02	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
500	137.02	138.59	堅硬な柱状コア	-	-	-	137.02	138.59	137.02~138.59m:堅硬な柱状コアからなる。	-
501	138.01	138.16	微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越。	138.01	138.16	微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多 い。幅2~3mmの区黄色粘土を挟む。	138.01	138.16	138.01~138.16m:微細でほぼ平行した50° 程度の割れ目が非常に多い。 幅2~3mmの区黄色粘土を挟む。	-
502	138.01	138.47	(岩級区分欄)CL	138.01	138.47	(岩級区分欄)CM	138.01	138.47	(岩級区分欄)OMIに含める	-
503	138.29	138.29	市10mmで平行した割れ目が非常卓越する。	138.28	138.29	幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集す る。	138.28	138.29	138.28~138.29m:幅10mmで平行した60° 程度の割れ目が密集する。	-
504	138.29	138.47	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CL	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	-
505	139.00	139.47	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
506	139.47	139.72	(岩級区分欄)CM	139.47	139.72	(岩級区分欄)CL	139.47	139.72	(岩級区分欄)OLに含める	-
507	-	-	-	139.50	139.90	傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	139.50	139.90	139.50~139.90m:傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	-
508	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Cランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	-
509	139.90	139.90	70°のシャープな剪断性の節理。市10mmの砂状と マンガンの挟在物が見られる。上層側には平行な 割れ目が3条見られる。	139.90	139.90	70°のシャープなせん断性の節理。幅10mmの砂 状とマンガンの挟在物が見られる。上層側には平行 な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に 定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が 認められる。	139.90	139.90	139.90m:70°のシャープな割れ目に幅10mmの砂状とマンガン の挟在物が見られる。上層側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子 に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。	-
510	140.00	140.00	挟尺	140.00	140.00	挟尺	-	-	-	-

余白

H24-D1-5

H24-D1-5 0.00~8.48m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
記事			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)			記事を削除・変更・追記した理由			選定した記事内容	
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
1	-	-		0.00	7.41	盛土 *表視の統一(盛土) *人工堆積物の区間を追記した	0.00	7.41	0.00~7.41m:盛土	
2	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる埋戻し土。1m以上でφ10~40mmのGp岩片、コンクリート片などを含む。	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる。埋戻し土。1m以上でφ10~40mmのGp岩片、黒色砂岩片などを含む。 *表視の統一(0.00) *表記の修正(φ→mm) *人工堆積物の地質名の記載を削除した *コアに含わせて含有率を変更した *1m以上にも径10~20mm程度の塊が見られるため、「1m以上」を削除した	0.00	3.00	0.00~3.00m:粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10~40mmの花崗斑岩、黒色砂岩などの塊を含む。	
3	0.00	3.00	(地質名欄)粗砂	0.00	3.00	(地質名欄)盛土 *表視の統一(盛土)	0.00	3.00	(地質名欄)盛土	
4	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる改良土で、粗砂の基質は比較的良好に締まっている。7.00~7.20mはルーズな均質な中砂、φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのGp主体の塊で、少量のCr、砕石片を含む。塊は硬質主体で一部半クサリで、歪内塊~歪内塊である。塊含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる。硬質主体で、粗砂の基質は比較的良好に締まっている。7.00~7.20mはルーズな均質な中砂、φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのGp主体の塊で、少量のCr、黒色砂岩片を含む。塊は硬質主体で一部半クサリで、歪内塊~歪内塊である。塊含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。 *人工堆積物の地質名の記載を削除した *砕石を岩片名に変更した	3.00	7.41	3.00~7.41m:砂礫 砂礫からなる。径2~5mmの石英粒、長石粒と径5~120mmの花崗斑岩の硬質主体で、少量の黒雲母花崗岩、黒色砂岩を含む。硬質主体の歪角~歪内塊で、一部半クサリ塊を含む。塊率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と少ない。基質は粗砂で比較的良好に締まっている。7.00~7.20mはルーズに均質な中砂からなる。	
5	3.00	7.41	(地質名欄)砂礫	3.00	7.41	(地質名欄)盛土 *表視の統一(盛土)	3.00	7.41	(地質名欄)盛土	
6	7.41	7.41	着岩	-	-		-	-		*下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
7	-	-	φ1~10mm石英、長石の斑晶からなる花崗斑岩(Gp)	7.41	54.00	花崗斑岩 φ1~10mm石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以上は斑晶の量が少なくアブライト様を呈する部分もある	7.41	54.00	7.41~54.00m:花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以上は斑晶の量が少なくアブライト様を呈する部分もある。	
8	7.41	8.51	風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残留。割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石斑晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土土層は殆ど分布しない。割れ目は30~50°主体で、割れ目周辺5~10mmは褐色化することが多い。	7.41	8.51	上端には幅1cm程度のモルタルが付着している。風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残留。割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石斑晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土土層は殆ど分布しない。割れ目は30~50°主体で、割れ目周辺5~10mmは褐色化することが多い。 *上端のモルタル付着について追記した *表視の適正化(軟質、原岩組織、圧度) *表記の修正(幅)の記載漏れ	7.41	8.51	7.41~8.51m:風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残留。割れ目は一部で消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土土層は殆ど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。	
9	7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目で、交差する53°、幅2mmの石英脈を切っている(真位置3mm右ズレ)	7.45	7.45	せん断性割れ目が石英脈を横断しているように見えるため「切っ」を「止」に修正し、交差する53°の記載を削除した。割れ目及び周辺の状態について追記した。上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性割れ目を削除した。	7.45	7.45	7.45m:傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には塊状物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
10	-	-	傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化している。	7.89	7.89	マンガンを含む割れ目は周囲と異なる状態であるため追記した。	7.89	7.89	7.89m:傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化する。	
11	-	-	マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	8.03	8.08	マンガン汚染は周囲と異なる状態であるため追記した。	8.03	8.08	8.03~8.08m:マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	
12	8.48	8.48	45°で幅5~10mmが緑灰色化(緑泥石化)、粘土化は伴わない。	8.48	8.48	表視の適正化(傾角)	8.48	8.48	8.48m:傾斜45°で幅5~10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。	

H24-D1-5 8.51~10.21m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
13	8.51	8.71	破砕帯	8.51	8.71	破砕部	用語の統一(破砕帯→破砕部)			●8.51~8.71m:破砕部 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土状部を呈する。幅3~8mm。 8.66~8.69m:粘土質硬状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m:粘土質硬状部(Hb)
14	8.51	8.66	H 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土混じり岩片状部を呈する。8.51~8.54mは粘土が堆積している。色調は、淡黄~にぶい黄(7.5Y8/4)で、厚さは140mm(コア長)	8.51	8.66	H 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土混じり岩片状部を呈する。8.51~8.54mは粘土が堆積している。やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は、淡黄~にぶい黄色(7.5Y8/4)で、厚さは140mm(コア長)	「種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した」 「表現の適正化(ほぼ、やや、深し)。種軟⇒原岩組織、軟質化、軟弱⇒軟質」 「記載の修正(色)の記載漏れ」	8.51	8.71	●8.51~8.71m:破砕部 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土状部を呈する。幅3~8mm。 8.66~8.69m:粘土質硬状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m:粘土質硬状部(Hb)
15	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に、下端はやや波打って連続。径2~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したCo岩片からなる軟質にぶい黄緑(10YR7/3)色の粘質粘土で、厚さは25~30mm。	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に、下端はやや波打って連続。径2~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したCo岩片からなる軟質にぶい黄緑(10YR7/3)色の粘質粘土で、厚さは25~30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	「種主体であるため破砕部内物質の名をを変更した」 「細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「表現の適正化(やや、軟弱⇒軟質)」	8.51	8.71	●8.51~8.71m:破砕部 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土状部を呈する。幅3~8mm。 8.66~8.69m:粘土質硬状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m:粘土質硬状部(Hb)
16	8.69	8.70	Hc-1(主せん断面・870m) 上端60°、下端60°で、両者ともやや波打って連続する。径1mm以下の微小石英を少量含む。軟弱な明赤灰(2.5YR/2)粘土。厚さ3~8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	8.69	8.70	Hc-1(最新活動面・870m)(最も直線的な面) 上端60°、下端60°で、上端はやや波打ち、下端は直線的に連続。径1mm以下の微小石英を少量含む。軟弱な明赤灰色(2.5YR/2)粘土。厚さ3~8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	「最新活動面という用語に統一」 「最新活動面の直線性を追記した」 「下境界と上境界の傾斜に比べて明確に直線的であるため下境界の直線性を更新した」 「表現の適正化(軟弱⇒軟質)」 「記載の修正(色)の記載漏れ」 「原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」	8.51	8.71	●8.51~8.71m:破砕部 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土状部を呈する。幅3~8mm。 8.66~8.69m:粘土質硬状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m:粘土質硬状部(Hb)
17	8.70	8.71	Hb 上端60°、下端65°で、上端はやや波打って、下端はほぼ直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と、径3~5mmの粘土化したCo岩片からなる軟質にぶい黄褐色(10YR7/2)を呈する硬質粘土。厚さは3~10mm。	8.70	8.71	Hb 上端60°、下端65°で、上端は直線的に、下端はほぼ直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と、径3~5mmの粘土化したCo岩片からなる軟質にぶい黄褐色(10YR7/2)を呈する粘土質硬状部。厚さは3~10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	「種主体であるため破砕部内物質の名を変更した」 「Hc-1の下境界の直線性の変更に伴い、上境界の直線性を更新した」 「細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「表現の適正化(ほぼ、軟弱⇒軟質)」	8.51	8.71	●8.51~8.71m:破砕部 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土状部を呈する。幅3~8mm。 8.66~8.69m:粘土質硬状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m:粘土質硬状部(Hb)
18	8.71	10.19	著しく軟質化し、原岩組織は一部が残留するが、割れ目は大半が消滅している。8.50~8.90mでは30~40°とこれに斜交~直交する50~70°割れ目の一部が残留している。	8.71	10.19	著しく軟質化し、原岩組織は一部が残留するが、割れ目は大半が消滅している。8.50~10.19mでは30~40°とこれに斜交~直交する50~70°割れ目の一部が残留している。	「コアに合わせて割れ目が残留している区間を変更した」 「表現の適正化(軟質化、原岩組織)」	8.71	10.19	8.71~10.19m:著しく軟質化し、原岩組織は一部が残留するが、割れ目は大半が消滅する。8.50~10.19mでは傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目の一部が残留する。
19	10.19	10.21	破砕帯(H-3a破砕帯)	10.19	10.21	破砕部(H-3a破砕帯)	「用語の統一(破砕帯→破砕部)」 「破砕帯名は評語であるため削除した」			●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅8~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部割てにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。
20	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続する。径1~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したCo岩片を含む粘質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟質である。厚さは5~10mm。	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。径1~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したCo岩片を含む粘質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟質である。厚さは5~10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	「種主体であるため破砕部内物質の名を変更した」 「上境界の性状を上位のHcの下境界の性状に合わせて更新した」 「細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「表現の適正化(やや、軟弱⇒軟質)」	10.19	10.21	●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅8~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部割てにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。
21	10.20	10.21	Hc-1(主せん断面・1021m) 上端36°、下端40°で、上端は波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。径1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部割てにぶい黄色(2.5Y8/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。	10.20	10.21	Hc-1(最新活動面・1021m) 上端36°、下端40°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。径1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部割てにぶい黄色(2.5Y8/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	「最新活動面という用語に統一」 「上境界の性状を上位のHcの下境界の性状に合わせて更新した」 「見出しに最新活動面の深度を記載しているため「下端が主せん断面である」を削除した」 「表現の適正化(軟弱⇒軟質)」 「原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」	10.19	10.21	●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅8~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部割てにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。

H24-D1-5 10.21~14.19m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
22	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目以降では色調が上位のぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	20.21 10.45 著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目以降では色調が上位のぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む) ・割れの修正(硬さD⇒硬さEが「幅」の記載漏れ) ・上端側幅が必ずしも上端とは限らないため上端に変更した。	10.21 10.45	10.21~10.45m:消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m:傾斜65°の割れ目を境に色調がぶい橙から橙に変わり、岩片も硬さ「D」が多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
23	10.45	10.50	破砕帯(H-4)破砕帯	10.45 10.50 破砕帯(H-4)破砕帯	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・破砕帯名は評価であるため削除した	10.45 10.50	●10.45~10.50m:破砕部 10.45m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で直線的にシヤープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。 10.45~10.50m:粘土質塊状部(Hb) 上端30°で直線的にシヤープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGsp脈を多く含む軟弱な硬質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~ぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
24	10.45	10.45	Hc-1(主せん断面) 30°で直線的でシヤープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土。主せん断面である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	10.45 10.45 Hc-1(最新活動面) 30°で直線的でシヤープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土。主せん断面である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・見出しに最新活動面の深さを記載しているため削除した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	10.45 10.50	●10.45~10.50m:粘土質塊状部(Hb) 上端30°で直線的にシヤープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGsp脈を多く含む軟弱な硬質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~ぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
25	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm×長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGsp脈を多く含む軟弱な硬質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~ぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	10.45 10.50 Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm×長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGsp脈を多く含む軟弱な硬質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~ぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。 ・φ5~10mmと幅5~10mmはほぼ同じ意味合いで記載が重複しているため削除した。 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	10.45 10.50	10.45~10.50m:粘土質塊状部(Hb) 上端30°で直線的にシヤープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGsp脈を多く含む。軟質。灰白~ぶい橙色を呈する。幅40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
26	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	10.50 10.98 (コアの形状欄)Vランク	・断面と比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをVランクに変更した	10.50 10.98	(コアの形状欄)Vランク	-
27	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Eランク	10.50 11.02 (コアの硬さ欄)Dランク	・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	10.50 11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	-
28	10.51	12.00	硬さDで軟質であるが岩組織と割れ目は明確に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の白色軟弱粘土脈を挟むことが多い。	10.50 12.00 硬さDで軟質であるが岩組織と割れ目は明確に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の白色軟弱粘土脈を挟むことが多い。	・破砕部の下端が10.50mであり、1cmの隙間を空ける理由がないため上端深度を変更した ・コアに合わせて硬さを変更した ・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・表現の適正化(原岩組織、ほぼ、挟む、沿い、軟弱⇒軟質)	10.50 12.00	10.50~12.00m:原岩組織と割れ目は明確に残留する。傾斜40~60°の割れ目が破砕部とほぼ平行に分布する。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
29	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク	10.98 11.20 (コアの形状欄)Vランク	・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	10.98 11.20	(コアの形状欄)Vランク	-
30	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Dランク	11.02 11.20 (コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	11.02 11.20	(コアの硬さ欄)Cランク	-
31	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Dランク	11.63 12.00 (コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	11.63 12.00	(コアの硬さ欄)Cランク	-
32	11.90	11.95	45~50°割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10 11.95 11.10~11.11m、11.90~11.95mに45~50°割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	・11.10~11.11mにもマンガン鉱染が見られるため追記した ・表現の適正化(沿い)	11.10 11.95	11.10~11.11m、11.90~11.95m:傾斜45~50°の割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-
33	12.00	12.61	50~60°割れ目が数本分布するのみである。ただし、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	12.00 12.61 50~60°の割れ目が数本分布するのみである。ただし、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	・割れの修正(「割れ目」、「径」の記載漏れ) ・表現の適正化(ただし、沿い)	12.00 12.61	12.00~12.61m:傾斜50~60°の割れ目が数本分布するのみであるが、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で径5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	-
34	12.18	12.61	(割れ目状態欄)Eランク	12.18 12.61 (割れ目状態欄)Bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した	12.18 12.61	(割れ目状態欄)Bランク	-
35	12.61	14.19	40~60°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多い。13.86~14.19mには80~85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	12.61 14.19 40~60°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多い。13.86~14.19mには80~85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	・表現の適正化(挟む)	12.61 14.19	12.61~14.19m:傾斜40~60°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°の割れ目も多い。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部では砂状化~径5~10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。	-

